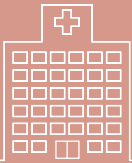


八鹿病院 ニュース



2016年

4月号

地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



● yoka hospital 「医療」

産後ケアはじめました

- 口腔ケア～歯科口腔外科としての役割～
- 現場レポート！「栄養管理科」
- トピックス

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。



当院は敷地内全面禁煙です
ご協力宜しくお願い致します

ママの笑顔で
赤ちゃんも HAPPY に★

産後ケア はじめました

当院では、4月より産後様々な不安を抱えたお母さんが自信をもって育児がスタートできるための産後ケア事業を開始しました。



産後の体・心・生活の変化による大変さは想像以上です

こんな経験ありませんか？

授乳の方法はこれでいいのかな？
おっぱい足りてるのかな。

からだの疲れがとれない。

赤ちゃんが寝てくれない。
少しでもゆっくり眠りたい

しんどくて
泣きたくってしまう

退院するのが不安。
もう少しの間、
助産師さんに教わりたい



出産はお母さんにとって命がけの大仕事です。出産することで体に大きな負担がかかり、ホルモンバランスも不安定になります。産後は一変して赤ちゃん中心の生活となり、生活リズムも大きく変化するため、ストレスを感じることも少なくありません。「私が頑張らなければ！」と責任感から一人でつらさを抱えてしまう方も多いのではないのでしょうか。

当院ではそんなお母さん

を応援するため、産後ケアを始めました。産後ケアとは、出産後、赤ちゃんと一緒に過ごしながらさまざまなケアを受けることが出来る宿泊型サービスです。妊娠・出産・産褥期に関わる助産師が、一人ひとりに合ったケアで心とからだの悩みを解決するお手伝いをします。

お母さんが、休養で自己信をもって育児がスタートできるようスタッフ一丸となりサポートします。

スタッフからの message



周産期センター長
津崎 恒明 医師

平成20年から助産師のキャリアを活かす「院内助産」に取り組み、今年2月末で1,070例の利用者に至りました。産科医師不足のなかで、分娩応需確保について全国的にみても希少な成功を収めています。今回、妊娠・分娩・産褥という一連の妊産婦ケアのなかでも、メンタルヘルスケアなどの産後ケア事業に取り組むことになりました。応援をよろしくお願いします。



周産期センター看護師長
中永 映子

「子育て」は「親育て」とよくいいます。焦る必要はありません。肩の力を抜いてくださいね。ゆっくりママになればいいんですよ。赤ちゃんはママの笑顔が大好きなんです。少しでもお母さんの笑顔のお手伝いできれば幸いです。

ケアメニュー お話を伺い、お悩みに応じたケアを行います



ママケア

心身の休養やカウンセリング、骨盤矯正の援助などを行います。



おっぱいケア

マッサージ・授乳指導・トラブルに対するケアを行います。

桶谷式乳房管理法認定の助産師を中心に指導します



ベビーケア

沐浴・スキンケア・泣くことへの対応・発育チェックなど



食事のケア

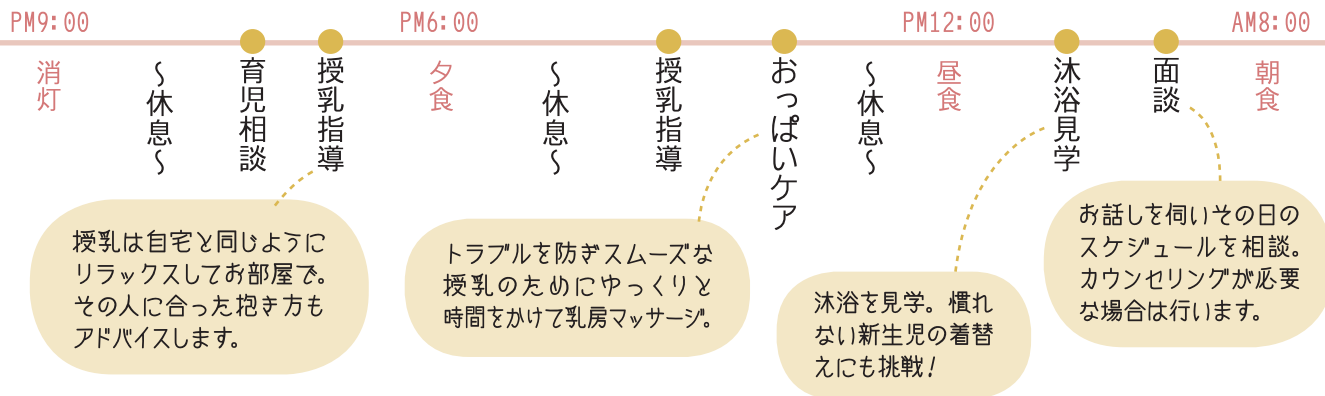
産後のお母さんに栄養バランスのよい食事を提供します。貧血食・減塩食に対する指導も行います。

ある日の過ごし方

～授乳・育児について不安があるママの場合～



授乳がうまくできない
沐浴もまだ不安だなあ



※赤ちゃんとは基本同室になります。

※面会時間・面会者は通常産後入院に準じます。

ご利用メニュー

●産後3ヶ月未満のお母さんと赤ちゃんが対象（当院以外で出産された方もOK）

※入院を延長しての利用も可能

●2日から最大7日間利用できます

市町村によっては助成があります

【個人負担額】1日あたり 養父市：2,000円 香美町 4,000円（非課税世帯 2,000円 生活保護世帯 1,000円）

詳しくはお住まいの各市町村へお問い合わせください。

【お問い合わせ】 公立八鹿病院 産婦人科外来

口腔ケア 〜歯科口腔外科としての役割〜

口腔ケアの必要性

肺炎は、がん、心疾患に次いで日本人の死因で3番目に多くなっています。特に、肺炎や気管支炎による死亡のほとんどは65歳以上の高齢者です。肺炎予防は高齢者の健康管理にとって重要な課題と言えます。高齢者が注意したい肺炎の一つが「誤嚥性肺炎」です。

誤嚥性肺炎は、口腔衛生状態が良くないことから、口の中の細菌などが誤って肺に入って発症すると言われています。脳血管疾患や認知症、高齢者は誤嚥反射や咳反射の神経活動が低下し、気道に異物が入るのを排除できずに誤嚥を起こしやすいと言われています。

誤嚥性肺炎を起こした人の多くは、本人も気づかない寝ている間

に誤嚥を起こしているのです。当院でも実際に誤嚥性肺炎を繰り返して、内科等で入院されている患者さんが多くみられています。

そこで、当院としてできることを、予防策のひとつである口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つための取り組みを始めました。

入院中の患者さんに対する 専門的な口腔ケア

2015年10月からは誤嚥性肺炎を繰り返して入院している患者さんに対し、他科の先生からの紹介で専門的に口腔ケアを行うようになりました。それまでは、入院病棟から依頼のあった方に対し行っていました。しかし、医師の専門的な目線で必要な方に主治医から当科へ紹介していただけるシス

テムとなり、さらに多くの患者さんに口腔ケアが行えるようになりました。

また、退院後のケアは、往診等でしか対応できない患者さんも多くおられるため、継続した診療が可能なかかりつけの歯科医院や歯科診療所をつくっていただいたり、当院の訪問歯科衛生指導を行い、誤嚥性肺炎の再発を予防します。このような取り組みを行うことで、病院から在宅に移られても口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎により繰り返す再入院を防ぐ取り組みを行っています。

全身麻酔・化学療法される 方への口腔内管理

他科での全身麻酔の手術の際には患者さんに当科を受診していた

「病院の歯科って何しているの？」 「歯科口腔外科って普通の歯科とどう違うの？」

このような質問を受けることがよくあります。イメージしづらい人も多いのかもしれませんが。



当科では、地域のかかりつけ歯科として、一般的な歯科治療、例えば虫歯（むし歯）や歯周病の治療、義歯（入れ歯）の調整や新製を行います。病院の歯科としては、当院の他科で入院している患者さんの口腔ケアや、近隣の開業歯科医院から持病のある患者さんの抜歯の依頼を受けています。

2012年4月から鳥取大学医学部附属病院歯科口腔外科からの派遣で、専門医・認定医を持った歯科医師の派遣が行われており、標榜を歯科から歯科口腔外科に変更しています。口腔外科とは、口腔内や顎、顔面、その他隣接組織に現れる疾患を扱う診療科です。例えば、親知らずなどの埋伏歯、歯根嚢胞、



だいています。全身麻酔を行う際、太い管を口から肺に入れますが、歯周病で歯がぐらぐらしたり大きな虫歯で歯が欠けていたりすると、歯が抜けてしまうことがあります。歯が肺に入ってしまうなど起こらないよう術前に抜歯や虫歯の治療が必要になります。

また、歯や入れ歯に汚れがたまっていると管から細菌に感染し、術後体力が低下していることもあり、誤嚥性肺炎などを発症することがあります。また、抗がん剤や放射線治療等で口内炎がでやすくなりますが、治療を開始する前に口腔ケアを行うことで口内炎を予防することもできます。

これらのトラブルを避けるため、歯科医師・歯科衛生士も治療チームの一員として関わっています。



必要な方には入院患者さんの元へ歯科医師と歯科衛生士がお伺いし、病室で診察を行います。口腔内の状態を診て口腔ケアが必要かを見極めます。必要に応じ、歯科衛生士も口腔ケアを行います。



病棟のスタッフへ患者さんの口腔内の状態報告や口腔ケアの指導を行い、再発予防に努めます。

口腔粘膜疾患や良性・悪性腫瘍、外傷、炎症、顎関節疾患などがあります。地域の診療所や院内の他科から紹介を受け、治療を行っております。

当科は歯科医師2名、歯科衛生士4名、歯科技工士1名が常勤しており、患者さんのニーズに合わせ治療を行うことを心がけています。治療後の患者さんの笑顔が見られるよう今後とも邁進していきたいと思います。

入れ歯や義歯の職人、 歯科技工士も常駐しています

当科の歯科技工士は、必要に応じて患者さんと対面し歯のかぶせ（クラウン、ブリッジ）や入れ歯を製作できる他、義歯の修理も行っております。基本的に予約が必要ですが、義歯を預かった後1〜2時間程度待っていただければ当日に修理した義歯をお返しすることができます。





栄養管理科



通院・入院患者さんに対して、食を通じて健康の維持・増進のために医師・看護師をはじめ、院内のさまざまな職種と協力し合いながら、チーム医療の一員として頑張っています。

病院食だけでなく、地域のニーズに合った取り組みを

病院の栄養部門には管理栄養士・栄養士・調理師・事務職など、複数の職種が集まってそれぞれの業務を行っています。栄養管理科といえば「病院食を作る部門」というイメージではな

いでしょ。実際には、病院食づくりだけではなく、他の医療施設に比べ、いくつかの特徴的な業務にも取り組んでいます。中でも「訪問栄養食事指導」で、専任の管理栄養士を配置し実施している病院は全国的にも非常に珍しく、注目されている取り組みです。平成26年度の人口推計によれば、但馬地域の65歳以上の高齢者が人口に占める割合は全国平均をはるかに超えており、将来の日本の超高齢社会が既に到来しています。そのような状況の中、通院困難な治療食を必要とされる患者・家族のみなさんの一助となるように、今後も頑張りたいと考えています。

病院食の工夫で入院患者さんに食の楽しみを

胃ろう造設患者さんへ 手作りミキサー注入食



食べ物を口から食べられない患者さんへのミキサー食を手作りしています。毎日ベッドサイドでミキサーにかける前のメニューの説明を行っており、患者さんにも大変喜ばれています。

患者さんに合わせた食事を ソフト食・やわらか食



食材の原型が無くなるような刻み食を原則廃止。形はあっても口の中でとろけるソフト食、特別な食材や調理法により、見た目は普通で食べると柔らかい、やわらか食を提供しています。

緩和ケア・化学療法患者さんへ 自由選択食の即日対応



ほぼ毎日管理栄養士が訪問し、当日の食べたいメニューをお聞きします。一切の制約なく、本人やご家族が希望されたメニューに即日対応し、お食事を楽しんでいただいています。

患者さんの生活スタイルに合わせた食事環境を提案



雨の日も風の日も
但馬中を走り回ります！



訪問栄養食事指導

食事療法は必要だがうまくいかない方、噛めない・飲み込めない等でお困りの方、食欲がなく栄養不足が心配な方へ管理栄養士がご自宅へ伺い、在宅で安心して食事が継続できるよう一人ひとりにあった丁寧なアドバイスや簡単な調理実習を行います。

<主な業務>

- 身体状況のチェック（血圧・体温・体重など）
- 食事内容と栄養状態のチェック
- 特別な治療食の確認・食事アドバイス
（糖尿病食・腎臓食・透析食・心臓食・胃術後食など）
- 家の調理器具や材料で調理実習
- 調整食品や介護食品の紹介

いつでも相談にのれる身近な“かかりつけ管理栄養士”
お気軽にご相談ください！

緊急時にも病院食を提供 備蓄食品の確保



被災（食中毒含む）により給食ができない場合は、院内に備蓄されている非常食を使って病院食を作ります。他病院が被災した場合にも必要に応じて、備蓄食を使用した食料支援を行ないます。



東日本大震災発生時にも被災地に備蓄食を提供しました。

院内の集団災害訓練時には訓練の一環として備蓄食の提供も行いました。



「食」のプロとして
入院・通院患者さんの栄養を
サポートします



[栄養管理科]

八鹿病院

栄養食事指導の工夫

栄養指導を楽しみながら体感
フードモデルの導入



栄養指導に使用するICタグ入りフードモデルのコンピューターシステムです。選んだメニューの良し悪しを瞬時に判定します。栄養指導を楽しく行えるツールです。

食事の自己管理が必要な方に
透析センターで栄養相談



週2回、透析センターのベットサイドにて管理栄養士が栄養相談をしています。各外来においても医師の指示を受け栄養指導を行っています。

トピックス



医師異動のお知らせ

【新任医師】平成 28 年 4 月 1 日付 ～よろしくお祈いします～



【内科】
うらせ やすよ
浦瀬 靖代



【内科】
うえだ やすまさ
上田 康雅



【外科】
おおはら ただゆき
大原 忠敬



【外科】
まえだ としゆき
前田 暁行



【外科】
まつもと たかのり
松本 高典



【整形外科】
ふくい しゅうさく
福井 周作



【整形外科】
てらむら しん
寺村 晋



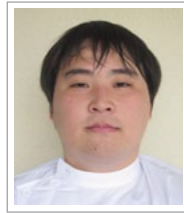
【産婦人科】
まつもと のりこ
松本 典子



【小児科】
さわじ よういち
澤路 陽一



【歯科口腔外科】
よしだ ゆう
吉田 優



【研修医】
しみず けんじ
清水 健史

【退任医師】～お世話になりありがとうございました～

平成 28 年 3 月 31 日付

【脳神経内科】近藤 清彦

【内科】井上 達也

【内科】杉山 陽介

平成 28 年 4 月 10 日付

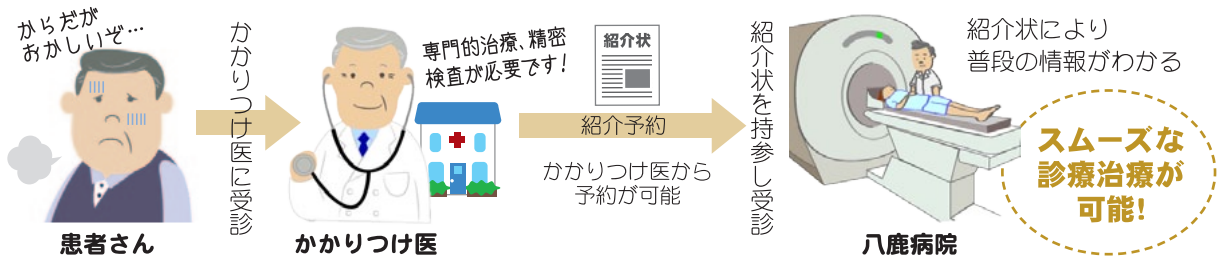
【外科】青木 文明

【外科】長谷川 寛

【外科】藤本 将人

かかりつけ医へ通院中の方へ

かかりつけ医へ通院中の方で体調に異常がある場合、直接当院へ来られる前に、まず、かかりつけ医への受診をお勧めします。かかりつけ医の先生から紹介状を書いていただき、それを持参して来院して下さるようお願いいたします。



発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079- 662- 5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

